

式 辞

ここせの里に春を告げる鳥のさえずりが響き渡り、桜の花の蕾も膨らみはじめ、春の訪れが一步一步近づいています。

本日、卒業を迎える皆さん、ご卒業、おめでとうございます

保護者の皆さまにおかれましては、本日、この日を迎えられましたこと、心よりお喜び申しあげます。

また、公私何かとご多用の中、ご臨席賜りました 千早赤阪村

村長 南本様 教育委員会 教育長 栗山様、教育委員の皆様並びに村議会議員の皆さまを始め、関係者の皆さま方、高いところから失礼ではございますが、心より御礼申し上げます

今、皆さん一人ひとりに、卒業証書をお渡ししました。それぞれの新しい道に進むべく、夢と希望に満ち溢れている姿が、とても印象的でした。

さて、みなさんを見てまず初めに思い出すのは、2度の延期の末に実施できた広島への修学旅行です。みなさんと共に過ごした三日間は、とても思い出深いものとなりました。平和セレモニーから始まり、安芸の宮島や尾道の班活動、サイクリングや地引網という体験活動、そしてレクレーション活動。とても、仲良く、楽しく、元気に活動していて、よい学年だなと感じました。

また、応援団として学校全体を引っ張って盛り上げてくれた体育大会。素晴らしい歌声で感動に包まれた文化発表会。皆さんの力には、いつも感心させられ、頼もしさを感じました。

ただ、そんな中学校生活も、新型コロナウイルス感染症という病気に気を付けながら、影響を受けながら過ごす毎日でした。

皆さんが中学一年の三学期末、突然、日本中の小中高等学校が臨時休業になり、しばらく学校に行きませんでした。新型コロナウイルス感染症は、未だに収束せず、日本をはじめ世界中で猛威を振るっています。手指消毒と検温、マスク着用の日常生活が当たり前になり、学校行事もいろいろと変更等の影響を受けました。本来であれば、本日の門出を、一緒に祝って送り出す在校生の姿がないのも、そのためです。

それでも、世界中が協力して、新型コロナウイルスに打ち勝つためにワクチンが開発されたり、仕事や勉強の方法など生活様式にも変化が現れたりしてきました。人類は今までも、幾度となく新たな病気が現れると研究して、それらを克服してきました。未来は決して暗くはないはずです。

生涯を伝染病等の研究にささげた立派な日本人に、野口英世さんという方がいます。千円札に肖像画が描かれている方です。

野口英世さんは、赤ん坊の時に囲炉裏に落ちて左手に火傷をおい、左手が握った状態でくっついてしまいました。左手の指が使えず不自由でしたが、人の何倍も努力して頑張る方でした。そして、皆さんと同じくらいの歳の頃に、左手の手術をしてもらい、指が使えるようになったそうです。そのことがきっかけで医者を目指したと言われています。そんな野口英世さんの言葉を、皆さんへのはなむけと

して贈りたいと思います。

※「過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。

なぜなら人生で変えることができるのは、

自分と未来だけだからだ。」

もう一度言います。(※くり返し)

左手が使えなかった過去は、どうしたって変えられない。だから過去にはこだわらず、未来を変えていこう。そのために、変えることができないのは、「自分自身」であると言っています。

誰もが自分の意志で、未来に変化を起こすことができる。

そのためには自分が変わることから始めないといけない、ということがわかります。

これから義務教育を卒業し、それぞれの道に進んでいく皆さんの前には、様々な出来事がおこるでしょう。くよくよしても過去は変えられません。でも、自分自身を変えることで、未来は変えていくことができます。

みなさんがこれから進む未来が、強い意志をもって自分自身を成長させることで、素晴らしい未来になることを願い、学校長式辞といたします。

令和四年三月十一日

千早赤阪村立中学校 校長 近藤 和浩